

## 彙報

## 平成二十七年研究活動報告

専任研究員 大柴清圓

## 【研究活動概況】

日常は科研究費の研究テーマである『篆隸萬象名義』の校訂研究」に関する研究を行っている。また、中期密教の属する主に不空三藏訳の漢訳經典における真言・陀羅尼の音写文字の還梵研究にも着手した。現在はいわゆる金剛薩埵六種儀軌の校訂ないし還梵研究を行っており、『五秘密儀軌』に関しては、全ての真言を還梵し終えた。

## 【研究発表】

- ・「神功皇后と東富貴の丹生神社―弘法大師の高野山開創に関連して―」（平成二十七年六月二十七日 巡礼遍路研究会）
- ・「京都毘沙門堂所蔵『古今』篆隸文體』の校訂研究―『古今文字讀』との比較を中心に―」（平成二十七年七月十日 密教研究会）
- ・「大本山隨心院所蔵『秘密曼荼羅大阿闍梨耶付法伝』について―東寺・真言七祖像の行状文との比較を中心に―」（平成二十七年九月五日 空海学会）
- ・「圓行入唐求法行迹考―以青龍寺出土三钴杵与金剛峰寺所蔵三钴杵淵源为中心―」（平成二十七年十月二十三日 第四届世界佛教論壇）
- ・『篆隸萬象名義』の校訂研究―原本『玉篇』との比較研究を中心に―」（平成二十八年一月十三日 研究所研究会）

## 【論文】

- ・『篆隸萬象名義』目録の校訂研究『高野山大学大学院紀要』第一四号
- ・「神功皇后と東富貴の丹生神社―弘法大師の高野山開創に関連して―」『巡礼遍路研究』第二号
- ・「再論『三教指帰』真作説」『高野山大学密教文化研究所紀要』第二九号
- ・「京都毘沙門堂所蔵『古今』篆隸文體』の研究（1）―翻刻・校訂篇（上）―」『密教文化』第二三五号
- ・「圓行入唐求法行迹考―以青龍寺出土三钴杵与金剛峰寺所蔵三钴杵淵源为中心―」『第四届世界佛教論壇』二
- ・「大本山隨心院所蔵『秘密曼荼羅大阿闍梨耶付法伝』について―東寺・真言七祖像の行状文との比較を中心に―」『空海研究』第三号
- ・「大本山隨心院所蔵『秘密曼荼羅大阿闍梨耶付法伝』の翻刻研究」『密教学会報』第五四号

## 【研究所研究会】

- ・第一回（平成二十七年七月二十六日、第二回（同年十月二十八日）、第三回（同年十一月二十五日）、第四回（同年十二月九日）、第五回（平成二十八年一月十三日）、第六回（同年一月二十七日）。司会担当。

## 【他の研究会等への参加】

- ・弘法大師著作研究会 第一回（平成二十七年五月十四日）〜第十五回（平成二十八年一月二十八日）。序文・第一住心から第三住心までの科文テキストの作成を担当。
- ・「宗教と科学の対話」・「いのちと遺伝子」合同研究会（平成二十七年五月二十四日 神戸常光院）
- ・「宗教と科学の対話」・「いのちと遺伝子」合同研究会（平成二十七年十二月六日 大阪ガーデンパレス）

## 平成二十七年研究活動報告

専任研究員 淵田雲溪

## 〔研究活動概要〕

「声明研究会」において、大阿様を務めていただいている南山進流東南院流における中川善教大阿様の正嫡である宮田永明上綱様（高野山総持院住職）のもと、報告者自身が伝授を受け研鑽に励んでいるのは勿論であるが、毎週行われる研究会において、大阿様との日程の調整や会所の設営等の運営を担当している。また同時に本学図書館等に残された貴重な資料などを用いて伝授における資料の作成などを試みているが、それらを用いて声明における論理的解釈や歴史の変遷など学術的な研究にも踏み込んでいきたいと考えている。

## 〔声明研究会〕

\*毎月 奇数週の火曜日 午後二時～四時 第一組

偶数週の火曜日 午後二時～四時 第二組

\*伝授、講義の曲目

・『声明類聚』におけるもの。

「三礼」・「如来唄」・「云何唄」・「出家唄」・「梵音」・「錫杖」・「散華」・「対揚」・「五悔」・「九方便」・「理趣経」・「四智梵語」・「心略梵語」・「不動梵語」・「四智漢語」・「心略看護」・「仏讃」・「吉慶梵語」・「吉慶漢語」・「東方讃」・「南方讃」・「西方讃」・「北方讃」

・声明の伝授は大きく分けて四段階とされ、「魚山（『声明類聚』）」「法則」・「秘讃」・「大阿闍梨」である。現在の『声明類聚』の曲目が終われば、次の段階として「法則」伝授に移る。現段階は、その第一段階である「魚山」を終えようとするところで、様々な曲目を研鑽することで、南山進流における声の動きや、博士の約束事などの基礎を習得することとなる。

・この研究会が、昨今、高野山においても乱れてしまった南山進流の声明における唱え方（博士）の一揆を図る足がかりとして、またその血脈を何とか後世に繋がんがために大きな役割を果たすものと期待できる。

## 〔研究発表〕

一月二十七日 研究所発表

「非情仏性における一考察

―最澄の入唐求法にみる、湛然『金剛鐔』著述の目的について」

## 〔他の研究会等への参加〕

「宗教と科学の対話」・「いのちと遺伝子」合同研究会

五月二十四日 於、神戸常光院（山崎泰廣住職）

## 南山教学研究会平成二十七年活動報告

委託研究員 北川真寛

## 〔研究活動概況〕

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年年度に密教文化研究所所属の研究員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させ、平成二十七年年度は、次のような活動を実施している。

① 論義書の輪読会

② 論義に関する調査・研究による研究発表と学術雑誌への投稿

③ 高野山勸学会への協力

i 勸学会における講義の実施・聴聞

ii 勸学会で用いられる金剛峯寺所蔵写本である『本書』と『打集』の活字化

と校訂

④ 山内論義で用いられる論義資料の調査と再治・増補

参加者…土居夏樹 兼任研究所員・高野山大学助教

北川真寛 委託研究員(事務局)

平賀由美子 受託研究員

高柳健太郎 高野山大学大学院生

小田龍哉 同志社大学大学院生

藤田光寛 高野山大学学長

和田友伸 高野山大学事務局長

南昌宏 高野山大学教授

トーマス・ドライトライン 専従研究所員・高野山大学准教授

中原慈良 委託研究員

大柴清圓 専任研究員

中西雄泰 高野山引撰院住職

高岡隆真 高野山明王院住職

飛鷹全法 高野山高祖院住職

安田弘明 高野山親王院住職

その他、高野山内住職、大学院生、大学生など

【輪読会の開催】

・六月十一日(木) 十三時三十分～十五時

土居夏樹 六四大曼互為能生

・十月二十三日(金) 十三時三十分～十五時

小田龍哉・高柳健太郎 自証極位

・三月二十四日(木) 十三時三十分～十五時(予定)

北川真寛 四仏会座

【研究発表】

・七月十一日(土) 密教研究会

北川真寛「綵画画像について―論義書を中心に―」

（『密教文化』二二六掲載予定）

・十月三十日(金) 日本密教学会

土居夏樹「六四大曼互為能生について」

（『密教学研究』四八掲載予定）

【宗学連携事業】

・勸学会二日廻し初日に、平成二十七年年度勸学会論題である『釈摩訶衍論』巻三についての講義を実施。

・『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを勸学会両学頭と協力して校訂し、勸学会実修に使用。

・問講の謂立を集成した『法談論義要集』や『山王院並御影堂月並問講集』に取められた宗・釈論題の再治・増補を行い、現在も続けられている問講の充実に資する資料の作成を目指し、高野山住職会・金剛峯寺法会課などの協力を得て、資料の収集、収録予定の論題の選定、掲載形態の雛形作成を実施。

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の再治・増補に関しては高野山山内住職と共同で活動している。

弘法大師著作研究会

【研究目的】

密教文化研究所の事業の柱に「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。本年度から『秘蔵宝鑑』をテキストとして研究会を開催しその研究成果を公表する。

【研究計画】

『秘蔵宝鑰』の研究会を原則月二回行う。研究会における研究成果を踏まえて学術的成果を『密教文化研究所紀要』『別冊』として公表する。なお、この成果に基づいて『秘蔵宝鑰』の内容を広く一般にも理解できる形で公刊する予定である。

【委員】

松長有慶 乾仁志 大柴清圓 加納和雄 川崎一洋 北川真寛 櫻木潤 佐藤隆彦 武内孝善 トーマスドライトライン 土居夏樹 中原慈良 藤田光寛 松長恵史 南昌宏 米田弘仁

【研究会実績】

| (日時)        | (担当箇所) | (担当者) |
|-------------|--------|-------|
| 第一回 五月十四日   | 大意序    | 松長有慶  |
| 第二回 五月二十七日  | 序分     | 佐藤隆彦  |
| 第三回 六月四日    | 〃      | 佐藤隆彦  |
| 第四回 六月十八日   | 〃      | 佐藤隆彦  |
| 第五回 七月三日    | 第一住心   | 米田弘仁  |
| 第六回 七月十六日   | 〃      | 米田弘仁  |
| 第七回 十月一日    | 〃      | 米田弘仁  |
| 第八回 十月十五日   | 第二住心   | 南昌宏   |
| 第九回 十月二十二日  | 〃      | 南昌宏   |
| 第十回 十一月五日   | 〃      | 南昌宏   |
| 第十一回 十一月十九日 | 〃      | 南昌宏   |
| 第十二回 十二月三日  | 第三住心   | 川崎一洋  |
| 第十三回 十二月十七日 | 〃      | 川崎一洋  |
| 第十四回 一月十四日  | 〃      | 川崎一洋  |
| 第十五回 一月二十八日 | 〃      | 川崎一洋  |



**高野山大学密教文化研究所紀要 第二十九号**

平成二十八年三月十八日 印刷  
平成二十八年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所  
代表者 奥山直司

発行所 密教文化研究所  
和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学  
電話(〇七三)五六―二三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和  
和歌山県海南市南赤坂五十三  
電話(〇七三)四八三―五二一一 千六四二―〇〇一七